

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	I Tryジュニア武蔵浦和		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 1日 ～ 令和7年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31人	(回答者数) 29人
○従業員評価実施期間	令和7年 10月 1日 ～ 令和7年 10月 31日		
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 11月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お出かけイベント、調理実習、地域との交流など、様々な体験ができるようにしている。	低学年でも参加しやすいように、近場のお出かけ先を公共交通機関を利用し、社会経験を増やしている。 手話体験、陶芸体験など、外部の方にも来ていただき、様々な体験ができるよう工夫している。	イベントの後、子供たち自身が振り返りを行い、次につなげる活動を検討していきたい。
2	個別の学習指導、プログラム、遊び、活動の切り替えを時間でしっかり分けている。	何時～学習、プログラム等、視覚的に「今日の活動の流れ」を分かりやすく提示している。	活動プログラムの充実化、個別学習では、宿題以外の学習の強化をしていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが狭い。	幅広い年齢がいるので、同じ空間で活動するのが難しい。 児童発達支援のお子さんもいる時もあるので、同じ空間で過ごすことが難しい。	曜日や時間帯で年齢や特性に合わせた支援を考えていく。 パーティションを使用していく。
2	幅広い年齢児童がいるため、同じ時間帯で個に合わせた活動が難しい。	どうしても低学年に合わせた活動になってしまう。	高学年・中高生向けのプログラムを曜日によって行っていく。 プログラム公表をしていく。
3	課題に対しての具体的な支援が分かりづらい。	職員間で課題共有ができておらず、支援の方向性が見えていない。	活動プログラムが何の課題のために行っているのか、5領域を意識したプログラム表を作成していく。